

1章 調査概要

1. 調査の目的

目黒区では、基本計画に掲げた「芸術文化の香りあふれるまちづくり」の実現を図るため、平成28年3月に「めぐろ芸術文化振興プラン」を策定しました。本プランに基づき、幅広い世代の区民が芸術文化に触れられるよう、めぐろパーシモンホールや目黒区美術館等を拠点に事業を展開し、鑑賞や発表の機会の提供などを通して、地域の活性化を図ってきました。

一方、近年では、時代の変化による家庭環境の変化や、ワークライフバランスの見直しなどにより、芸術文化に触れる機会がますます求められています。現在、こうした変化に対応するため、より効果的かつ計画的に取り組めるよう、本プランの見直し及び改定作業を進めています。

そのなかで、本区の芸術文化に関する実態やニーズを把握し、計画改定の参考にするため、区民を対象としたアンケート調査を実施しました。

2. 調査の方法

調査対象：目黒区在住の16歳以上の男女3,000人

抽出台帳：住民基本台帳（令和6年7月1日現在）による

抽出方法：層化無作為抽出（性別・年齢・居住地については下記条件による）

調査方法：郵送配布—郵送又はウェブアンケート（無記名）回収

調査期間：令和6年8月19日（月）～9月9日（月）の約3週間

【層化無作為抽出条件】

地域	年齢	16歳以上 20歳代 500人	30歳代 500人	40歳代 500人	50歳代 500人	60歳代 500人	70歳代以上 500人
	性別						
北部 600人	男性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	女性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
東部 600人	男性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	女性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
中部 600人	男性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	女性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
南部 600人	男性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	女性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
西部 600人	男性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	女性 300人	50人	50人	50人	50人	50人	50人

3. 回収結果

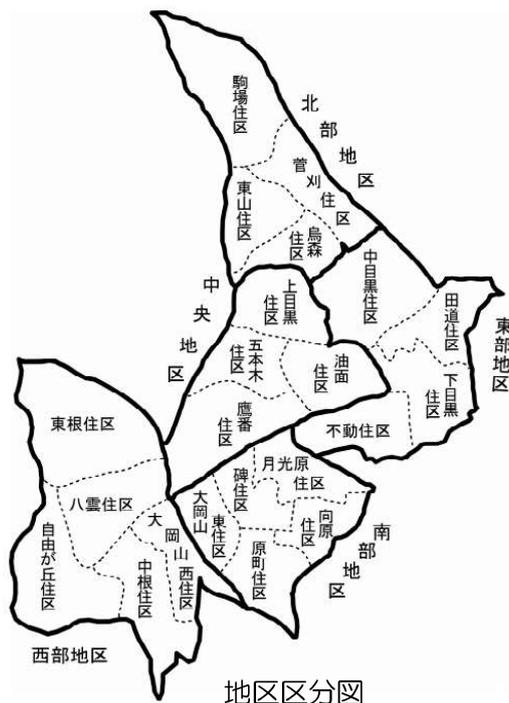
標本数：3,000

回収数：755（うち紙面516、ウェブ239）

回収率：25.2%

4. 地域区分

(1) 層化無作為抽出条件における地区区分



地区	住区	区域
北部	駒場住区	駒場1～4丁目、大橋2丁目の一部
	菅刈住区	青葉台1～4丁目、大橋1丁目、上目黒1丁目の一部
	東山住区	東山1丁目の一部、同2・3丁目、上目黒5丁目の一部、大橋2丁目の一部
	烏森住区	東山1丁目の一部、上目黒2・3・5丁目の各一部
東部	中目黒住区	上目黒1～3丁目の各一部、中目黒1～3丁目、同4・5丁目各一部
	田道住区	三田1・2丁目、目黒1丁目、同2・3丁目の各一部、中目黒4丁目の一部
	下目黒住区	目黒2・3丁目の各一部、下目黒1～3丁目
中央	不動住区	下目黒4～6丁目、目黒本町1丁目
	上目黒住区	上目黒4丁目、中目黒5丁目の一部、五本木1丁目、祐天寺1・2丁目
	油面住区	中目黒5丁目の一部、目黒4丁目、中町1丁目、同2丁目の一部
	五本木住区	五本木2・3丁目、中央町2丁目、中町2丁目の一部
南部	鷹番住区	中央町1丁目、碑文谷5・6丁目、鷹番1～3丁目
	月光原住区	目黒本町2・4丁目、同3・5・6丁目の各一部
	向原住区	目黒本町3・5・6丁目の各一部、原町1丁目
	碑住区	碑文谷1・2丁目、目黒本町6丁目の一部
	原町住区	原町2丁目、洗足1・2丁目、南1丁目
西部	大岡山東住区	南2丁目、碑文谷3・4丁目
	大岡山西住区	南3丁目、平町1丁目、同2丁目の一部、大岡山1丁目の一部
	中根住区	大岡山1丁目の一部、同2丁目、緑が丘1・3丁目、中根2丁目、平町2丁目の一部
	自由が丘住区	緑が丘2丁目、自由が丘1～3丁目、八雲3丁目、中根1丁目の一部
	東根住区	柿の木坂1丁目、八雲1・2丁目、中根1丁目の一部
	八雲住区	柿の木坂2・3丁目、八雲4・5丁目、東が丘1・2丁目

5. 報告書の見方

- ・ 図表中の「n」は、設問への回答者数を示しています。
- ・ 調査結果（表中）の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ・ 複数回答形式の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ・ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ・ 代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ・ 設問に対する回答項目のうち、1位を **白文字**、2位を **太文字** で表示していますが、1位が複数ある場合には、2位の表示は行っていません。また、無回答についてはこの表示を行っていません。

6. 補正の実施

- ・ 目黒区全体の傾向をより正確に反映するため、調査対象の属性（年齢・性別・居住地域）の分布を考慮し、重みづけによる補正を実施しました。
- ・ 単純集計の結果表には、全体の合計値および割合に加えて、補正後の全体の合計値および割合を掲載しています。また、目黒区全体における構成比を示すグラフは補正後のデータを基に作成しています。

7. 標本誤差

標本誤差とは、全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがありますが、その誤差のことを指します。この誤差は、標本の抽出方法や標本数により異なりますが、誤差を数学的に計算することが可能です。

本調査の回答結果から、母集団（目黒区在住の満 16 歳以上の男女）全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の算出式と早見表を示します。

標本誤差算出式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

- b = 標本誤差
 N = 母集団数（目黒区在住の満 16 歳以上の男女）
 n = 比率算出の基数（回答者数）
 P = 回答の比率（ $0 \leq P \leq 1$ ）

早見表

回答の比率 (P) 基数 (n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
800	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.5%	±3.5%
755	±2.2%	±2.9%	±3.3%	±3.6%	±3.6%
600	±2.4%	±3.3%	±3.7%	±4.0%	±4.1%
400	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
200	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%

この表は、ある設問の回答者数が 755 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 80%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±2.9%以内ということを表わしています。

例えば、「現在の目黒区では、『芸術文化を身近に感じ、芸術文化に触れる機会が多い』と感じますか。」という質問について、「とてもそう思う」と回答した人が全体 (n=755) の約 60%であった場合、標本誤差は ±3.6% となり、芸術文化に触れたり活動したりすることを非常に重要だと考えている人の割合は、標本誤差を補正すると、56.4%から 63.6%の間にあることが 95%の信頼度で言えるということを表しています。

8. 前回調査（平成 26 年度）との比較

今回の調査は、平成 26 年度に実施した前回調査と設問内容を変更しているため、完全に一致する設問は少なくなっています。

そこで、ほぼ同じ内容の設問については比較グラフを作成して分析していますが、内容が異なる設問については前回のグラフと分析を記載しています。

今回調査の 設問番号	前回調査の 比較可能な 設問番号	前回との相違点等	記載方法
1	1	年齢の区分方法が異なる	前回のグラフと分析
2	2	選択肢の追加	前回のグラフと分析
3	3	居住地の選択肢と分類方法が異なる	前回のグラフと分析
4	4	選択肢の細分化	前回のグラフと分析
5	なし		
6	なし		
7	なし		
8	なし		
9	7	今回は直接鑑賞、間接鑑賞、直接実践、間接実践を別設問で確認しているが、前回は芸術文化に関わるすべての活動を Q 7 で確認している	前回のグラフと分析
10	8	今回は直接鑑賞、間接鑑賞、直接実践、間接実践を別設問で確認しているが、前回は芸術文化に関わるすべての活動を Q 7 で確認し、「いいえ」と回答した方を対象とした質問になっている	前回のグラフと分析
11	なし		
12	7	問 9 と同様	省略
13	8	問 10 と同様	省略
14	なし		
15	10	選択肢の細分化	前回のグラフと分析
16	11	選択肢の追加や表現の変更	前回のグラフと分析
17	13	同じ	比較グラフと分析
18	14	選択肢の追加や順序の変更	前回のグラフと分析
18- (8)	14- 詳細	同じ	比較グラフと分析
18- (9)	14- 詳細	同じ	比較グラフと分析
19	21	同じだが、複数回答したデータを前回は除外して算出し、今回は複数回答設問に変更している	比較グラフと分析
20	15	選択肢の細分化	前回のグラフと分析
21	なし		
22	19	鑑賞体験と実践活動体験に分割し、0 点～10 点で必要度を選択	前回のグラフと分析

23	18	選択肢の追加や順序の変更	前回のグラフと分析
24	5	鑑賞体験と実践活動体験に分割し、0点～10点 で重要度を選択	前回のグラフと分析
25	22	7項目について0点～10点 で重要度を選択	前回のグラフと分析
26	16	選択肢の細分化	前回のグラフと分析
27	なし		
28	23	詳細に分割し1点～5点 で満足度と重要度を選択	前回のグラフと分析